



小峰美省
(陶磁器)

貫いてきたから
きっと今もこれからも
作り続けられる。
「やらないや!」
ではなく、
「やりたい!」
という素直な気持ちで。

埼玉県出身の小峰美省さんは
高崎の芸術学校へと進み、陶芸
の世界に足を踏み入れた。
初めてだった陶芸だが、粘土が
自分にしっくりきた。



絵付け完了!ただいま乾燥中。
乾いたら窯の中へ!

埼玉県加須市に陶芸家である
旦那さんと二人で「AM陶工
房」を構えている。目の前には
田んぼが広がり、静かでもとも
心地よい時間が流れている。
庭にはどしどし伸びるローズ
マリー、そして灯油窯があり、
ここでたくさん作品が焼き
あがる。
ベランダには最近作っていると
いう大きな壺。入り口にはお二
人の作品がずらりと並び、出
迎えてくれる。

卒業後、芸術を広めようと作
られた「暮坂陶芸研修センター
(現在はくれさかの森陶芸工
房)」という場所で作品作りを
進めることになった。
そこでは何名かで窯を共有し、
作品を作るという環境。
旦那さんともそこで出会う事
になった。



なんだか
絵本みたい!
物語を想像して...

個展や公募展への出展など、そ
こでは約五年間活動を行い、
作品作りに没頭した。
「ネコ描いてって言われてネコ
描いたり、こんなの作ってって言
われて作ったり...」
「ホント、流れっぱなし!」
と笑って話す。
悩んで来なかったし、今も悩み
はない。純粋に陶芸が大好きと
言う気持ちに勝るものはやは
り無いのだ。今年は北京での個
展も控えている。
「私、ずっとやってんだよねー。
おかしいよねー。笑」
気づけば二七年間陶芸をやり
続けていた。

元々絵を描くのが好きだった小
峰さんの作品には独特の模様や
素敵な絵がたくさん描かれて
いる。昔はアバウトに描かれて
いた動物達だが、今はたくさん
の可愛い動物が細かい描写で描
かれている。
どれもストーリーを感じ、今に
も動き出しそうだ。(いや、動い
ているのかも...)



あーたまらん。
みんな
違う顔してる!

これはとても個人的な気持ち
だが、小峰さんの作品には、た
だ「惚れてしまった」という感覚
がずばり。
そんなたった一度の出会いが、
きっと生活を特別なものにして
くれる。これからもどんな作品
に出会えるか本当に楽しみだ。
また惚れちゃうかな...

